

YOUNG BUDDHIST ASSOCIATION MAGAZINE
<http://www2.hongwanji.or.jp/yba/>

No 140

makoto



星のかケラは

もう一度宇宙に戻って

長い時間をかけて

新しい星を作る。

——宇宙科学技術館の言葉より

CONTENTS

makoto No.140

テーマ「宇宙」

エッセイ／文章と写真☆日下賢裕 宇宙……………	02
種子島宇宙センター体験記／文章☆平さとみ 「旅の途中。」……………	03
仏教のお話☆岩佐准光 【連載】彼國の便り……………	06
【スペース・アジア】インドの旅／文章と写真☆加藤心樹 ロマとツンドラの男……………	07
全国真宗青年の集い新潟大会レビュー／文章☆本多聡 「ボクは時はなつ」……………	10
Information 本山成人式・中央研修会……………	12
編集後記 STAFF VOICE……………	13

EDITORS :

SHINKI KATO,ITSUNOBU FUJIWARA,KENYU KUSAKA,SATOSHI HONDA,
SATOMI HIRA,TOSHIHIRO MIYAZAKI,MARIKO NAKAYAMA



エッセイ 「宇宙」

文章と写真： 日下賢裕
text & photograph : Kenyu Kusaka

宇宙。たった漢字二文字で表現されるが、この言葉には、まさに無限の広がりがある。始まりは、ビッグバンと呼ばれる大爆発だった。そこから宇宙の膨張が始まり、いくつもの星が生まれ死にしていって、今の私たちが目にする宇宙空間が形成された。そんな無数の星に飾られた闇と光の空間に、詩人も、科学者も、たくさんの人が魅了されてきた。

21世紀に入り、宇宙旅行が可能になりつつある現代でも、まだまだ宇宙はわからないことだらけで、宇宙を形成するエネルギーの約70%が未知のものであると言われている。そんな壮大で、謎に満ちた宇宙。地表から100キロ以上離れたところを宇宙と呼ぶとされ、私たちの想像も手も届かない、遠い遠い存在のように感じる。けど、ホントに宇宙って、私とはかけ離れたものなのだろうか。

私たちが住むこの地球も、当然だけど、宇宙空間に浮かぶ宇宙の一部。そして地球が、生物の住める惑星として成り立っているのも、宇宙が膨張する過程で作られられたもの。そう考えると、この地球の活動も、宇宙の活動の一部であり、私が今ここに生きているのも、壮大なる宇宙の始まりから現在に至るまでの活動によって、生み出されたものと言える。

ほんの少しでも、どこかで狂いが出ていけば、地球に生物は生まれなかつたらうし、生命も違った進化をしていたかもしれない。まぎれもなく私は、宇宙のすべてのはたらきによって、今、生かされているのだ。そう思うと、遥か遠いものと感じる宇宙のはたらきも、実は、一人一人の生命と言う身近な所に届いているんだらうな。

け
アタシ、宇宙に行きます？

「旅の途中。」

文章：平さとみ
text : Satomi Hira

宇宙に一番近い島。
到着して開口一番に暑いと言葉が出る。
気温は30度。
九月も終わりだというのにこの暑さ。
さすが南国だ。
今回の目的地は、種子島宇宙センター。
世界一美しいと言われるロケット基地。
全体の広さは970万平方メートル。
ディズニーランド12個分。
どんな出遇いがあるか楽しみだ。

TANEGASHIMA SPACE CENTER



命名、ザ・ガスター-0
どこまでも
とびます、とびます〜

ここから飛ばせます。
ちなみに、
ガンダムは飛ばせません。

実はですね、
ロケットって
スゴいんですよ。

TANEGASHIMA SPACE CENTER



モニター室のイエイ!

まずは大崎第一事務所のここには本物のロケットが！ロケットの中身は人工衛星と固体、液体燃料だけで重量の90%を占めちゃいます。コレを見ちゃうと、ロケット開発はスゴいひと言。その技術に感動。次に大型ロケット発射場のここは組み立てから整備、点検までを行いロケットを発射する場所。建物の大きさや広さは目が丸くなります。そして総合指令棟。ロケット打ち上げに関するすべての情報が集まる場所。パソコンやモニターがだら〜りと設置。テレビでよく見る場所であったことを、ふと思い出しました。



宇宙センニチコウ。
1993年9月17日、
「たけさき3号」に乗って、
無重力状態へ。
その後の種が、
種子島の小学校で
大切に育てられ、
宇宙科学技術館に
寄贈されたそうです。



私たちも旅をしているんですよ。その途
中の大切な思いは、次世代に続いて欲しいと
願う私のココロ。宇宙センターで見た言葉
は、どにか仏教に通じるように感じた私。種
子島から飛び立つ飛行機の中でそんな想いを
馳せながら、家路についたのでした。

宇宙開発が
はじまりを求め
旅の途中だということ。

そもそも、なぜ種子島に宇宙センターがで
きたのかと言うと、ロケットは東か南にしか
飛ばせず、また広い土地と天気が安定してい
ることなどが理由だそうです。確かに民家
や人口が少ない土地じゃないとあぶないで
すし、広い土地がないと建てられませんから
ね。つまり回りを海に囲まれた種子島は、ロ
ケットを飛ばすには格好の場所だったと言
える訳なのです。最後に科学技術館にあった
ファイルに目を通すと次のようなお言葉が。

仏教には、縁起という根本的な教えがあります。

広辞苑で調べますと「一切の事物は固定的な実体をもたず、さまざま原因(因)や条件(縁)が寄り集まって成立しているということ。仏教の根本思想。因縁。因果」とあります。全てのもは関係性によって、つながりあつて成立しているということでしょうが。

一般的には、縁起が悪い、縁起かつぎ、などの意味で使われがちですが、本来の意味はとても深い意味ですね。

この縁起という教えを通して今回のmakotoのテーマ、宇宙を考えてみましょう。宇宙というものは、様々な物質や、エネルギー、惑星、生命などがつながりあつて存在しています。そして、今この瞬間の宇宙を成り立たせているのは、それら全てと私であり、あなたという人間がいて初めて巨大なる宇宙が存在していることになります。宇宙だと大きすぎるかもしれませんが置



【連載】^{ひこく}彼國^{たよ}の便り (五)

仏教のお話：岩佐准光

Buddhism preaching : Junkou Iwasa

き換えますと、地球、世界、日本、世の中、最近の人、こういった言葉で考えていくと傍観者になってしまいがちな自分に気がきま

す。
どうせ世の中なんて、こんな日本って、こういう言葉を使う時、自分を抜いて考えてしまいませんか。縁起の教えを通して、今この瞬間の世の中や、日本を考えていくと、私なしでは決して成立しない。だから、まず私がどうであるかが大切なはず

です。
もし、あなたが仏さまの教え・願いに遭遇したら、人の温もりに触れて優しい気持ちになれたら、友達や家族にいつもより優しい気持ちで接することができるかもしれません。そのつながりの連続性の中で、世の中は、日本は、いや宇宙はもっと優しくなれるでしょう。宇宙という大いなる存在を通して、私を考えていく中で、私自身の何気ない日常の尊さを再確認させていた

きたいものです。



文章と写真：加藤心樹
text & photograph : Shinki Kato

【スペース・アジア】インドの旅 ロマとツンドラの男

インド都市部の行き交う人びと。人間の躍動が肌で感じられる。

私がデリーに降り立つと、待っていたのは薄く黄色い大地。「霧が深いね」とインド人に言うと「あれは埃だよ」という答えが返ってくる。興奮に満ちていた体が、すぐに現実へと戻された。やっぱアジアだ。アジアは人間の躍動そのものが文化となり生活となる。とりわけインドはアジアの、いや宇宙の中心ともいふべきところかもしれない。決してゼロの概念や「空」という表現だけではなく、人間の陰と陽をありのままに映す巨大な鏡のような国である。

突然だが、ロマという言葉に耳にしたことはあるだろうか。かつてジプシーと呼ばれ、北インドに起源を持つ民族である。スペインのフラメンコもロマの民族音楽が起源といわれる。ロマは日本に渡らなかつたが、ブツダの教えは伝わった。そんな文化と思想が溢れるこの国の姿をファインダーで覗いてみた。



インド三日目。

ラクノーに向かうツンドラ駅のプラットホームでチャイと豆菓子を片手に列車を待っていると、一人の男が近寄ってきた。言葉は分からなかったが、どうやらカメラが珍しいようで、自分を撮ってくれという。「俺がモデルになってやる」といわんばかりにポーズを取り始めるのでパチリ。写した写真をモニターで見せると「俺、カッコいいだろ?」という顔をして微笑んだ。そして「オマエにやるよ」という仕事をしてくれとどこかに行ってしまった。余談だが、インドでは観光客相手に写真を撮らせ、後に金銭を要求されるのがオチだが、この彼の場合は違っていたようだ。ただ彼は、荷物を持っていなかったなので、ロマのような生活なのかもしれないと想像してみる。だが、



そのままに生きる。

ツンドラ駅に向かう途中で見た集落の様子。インドでは都会でも地方でも、動物が人々の生活に根づいている。

列車をただ待っていたとしたら、彼の行き先はどどだったのか気になって仕方がなかった。その時はインド語を話せない自分を悔やんだが、手に持っていた豆菓子のパッケージに書いてあるインド語を見て無理だと気がついた。

生まれた国も違い、名前も知らないインドの男。いずれまたインドに降り立つ時は、このツンドラ駅から列車に乗ろう。彼とは、また出遇えるような気がする。その時は、この写真を渡したいと思うのだった。そうしているうちに列車が到着していた。三〇分遅れとは、インドにしては上々らしい。「チャイを飲み干したら、素焼きのカップは地面に投げつけて割るんだよ」。なんとなくイイ感じだ。そんな嬉しさを感じつつ、混雑するプラットフォームから列車へ足を運んだ。

…次号に続く。



新潟・越後湯沢

「ボクは、 時はなつ」

文章・本多 聡

text: Saoshi Honda



七月二七日、福井県のある場所で車を待つていた。新潟県湯沢市で行われる「全国真宗青年の集い」に参加するためである。初めて参加する全国大会だ。緊張感もあったが、込み上げてくる楽しみな気持ちを押さえきれなかった。実は前日、あまりよく眠れなかった。いくつになっても「遠足前の小学生」である。

今夏開催された、
全国真宗青年の集い
新潟大会。
ここ越後湯沢で、
ボクはまさに
ときはなたれた。
懐かしい顔たちと
大自然に囲まれた
二日間。
皆さんは何から
ときはなたれましたか？

会場であるNASPAニューオータニに到着すると、会場は若者の活気で溢れ返っていた。一人で参加している人や数十人で会場に来た人。大会常連さんは「久しぶり。元氣？」と、まるで同窓会のような雰囲気である。全国と銘打っているが、海外からの参加者もいたのにはビックリした。何もかもが驚きと感動、歓びの連続である。

一日目は、NASPAニューオータニで様々なイベントで盛り上がり、プログラムを見ると時間が長く感じられたが、あつという間の大会初日であった。



会場となったNASPAニューオオタニ。イベントてんこ盛り。大盛況となった大会初日でした。



大会二日目、湯沢高原アルプの里。大自然の中で、みんな童心に戻りました。とにかく開放感満載。

二日目は、前日のインドアからアウトドアに変わり、湯沢高原アルプの里でハイキング。二面に見える、緑色の絶景のパノラマ。心身共に癒された。楽しく充実した二日間だった。大会関係者の方がたや、スタッフの方がたの汗や笑顔が私の緊張感を和らげ、楽しく良い経験になった。

今年のテーマは「ときはなつ」。後日、辞書を引いてみると、①解いて別々にする。②繋いである紐や縄を動けるように(自由に)する...と書いてあった。

私にとって「ときはなつ」とは②のようだ。私の日常において、繋いである紐とは束縛された時間であったように思える。限られた時間であったが、まさに解き放たれた。いや、時(とき)放たれた。

また来年、ご縁をいただければ、富山の地で多くの人びとと喜びや感動を分かち合いたい。来年のテーマは「ひとりじゃない」である。

「20歳になったら京都に行こう」

本山成人式、2009年1月11日開催決定。



京都・西本願寺で行われる成人式が今年度も開催決定。2009年1月11日(日)、本願寺総御堂及び聞法会館で行われる。本願寺での成人式は、なんと今回で57回目をむかえる歴史ある成人式。対象は、今年度新成人となる方。もう20歳になった人も、もうちょっとで20歳になる人も、京都のお寺で素敵な成人式をしてみたいか？ 皆さんのご参加をお待ちしています。

申し込み、お問い合わせは下記まで。

浄土真宗本願寺派 組織教化部 本山成人式係
Tel 075-371-5181 (代)
¥式典参加無料 祝宴参加の場合 2000 円
帰敬式受式の場合 3000 円

「新たな自分にも出遇えました」

第55回中央研修会、無事に閉幕。



10月4日、5日とご本山で開催された第55回中央研修会に参加させていただきました。『温己知人～己を温め人を知る～』の研修テーマのもと、スタンツ(寸劇)を班ごとに企画・発表をするというものでした。

私は二度目の参加でしたが、ほとんど知らない人ばかり。はじめは不安で手に汗を握っていましたが、いざ班ごとに分かれて作業を始めたら、すぐに皆さんと打ち解けることができました。人の意見を聞き、また自分の意見を聞いてもらうという単純なことがとても大切です。スタンツでは表現する難しさと、人の数だけ考えもあるということを知り

つ、恥ずかしさを超えると新たな自分にも出遇えました。

研修という名がつくと固いイメージを持たれますが、お互いを知る機会であると思います。寺族の方と門徒の方がたが一緒に何かをすることで、これからの仏青の活性化にもつながっていくと思いました。

『温己知人』というテーマは研修会のみならず、普段の生活にも活かしていきたいテーマです。みなさんも機会があれば研修に参加してみたいかでしょうか。

長谷 光海 (兵庫教区) Mitsumi Hase

STAFF VOICE 編集後記

EDITOR : Shinki Karo
加藤心樹

ます、JAXA担当の方のご配慮に感謝いたします。ありがとうございました。

インド話。日本出発時は冬だったので、マフラーを持ってインド入スタツに「ターバンの巻き方教えてくれ」と言ったら巻いてくれたので、ドライブインの路上でしゃがんでタバコを吸っていたら、「ハハハ、インド人カト思ッチャッタヨ。インドデモ、全然生キテイケルネー」と、嬉しいような悲しいようなお言葉が、私はインドでも生きていけるぞです。

EDITOR : Kenyu Kusaka
日下賢裕

初めて「まこと」の編集に関わらせてもらったのですが、いきなり「宇宙」というとても大きく大きいテーマで、かなり戸惑いました。けど、なんかこういう冊子を作り上げるのって楽しいですね。いろんなところで、この「まこと」が見られるといいなあ、なんて思います。

EDITOR : Saomi Hira
平さとみ

皆さまはじめまして。ドキドキしながら広報に入りました。初めての取材文章にする難しさを実感しました。自分なりに出来ることから始め、小動物のように「ちょこまか動いて、たくさんの人に広報誌を読んでもらえるように、活動していきたい」と思います。よろしく願います。

EDITOR : Satoshi Honda
本多聡

初めての「まこと」編集は良い経験になりました。記事を書くことの大変さがわかりました。読者のことを忘れずに、記事を書いて「まこと」の編集に携わりたいです。

EDITOR : Toshihito Miyazaki
宮崎寿洋

最近私は、奈良の寺社巡りをしています。行き先は様々ですが、そこでは歴史を感じ、世界の雄大さを体験することができます。そして私が最も好きなのが、駅やバス停に着いた時に広がる風景です。決して派手ではありませんが、そのような何気ない風景が、その土地に生きる人びとの暮らしを身近に感じさせてくれるのです。この「まこと」も派手ではありませんが、そのような何気ない出会いを少しでも提供していければと思っています。

EDITOR : Mariko Nakayama
中山真理子

今年からご縁あつて広報委員となりました。「一切からない卵の状態の私です。でも、新しく出遇った広報の仲間や読者の皆さんから、いろんなバイスや調味料を分けてもらって、なんとか味のある「私」になりたいと思います！「まこと」っていろんな漢字がありますけど、私の名前の一字も「まこと」なんです。気付いたらなんとなく愛着が湧いてきて、これからは私の分身として愛情を持って「まこと」を作っていきたいと思います。でもとりあえずは就活頑張ります。汗。

EDITOR : Tsunobu Fujiwara
藤原慈信

先日、テレビで柳家小三治さんがおっしゃってました。「小さく小さく」だそうです。なので、今は大きく行きますよ。

wakoto
No.140

編集／発行：仏教青年連盟 広報委員会

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル

浄土真宗本願寺派 仏教青年連盟機関紙 『wakoto』 140号

2008（平成20）年12月15日発行

印刷：創文堂印刷株式会社

TEL：075-371-5181（代）



ケータイにもブツディズム。

Buddhism in HandPhone.  **Nenju**Strap.

ケータイ専用、
お念珠型ストラップ誕生。
全10色。

お問い合わせ：浄土真宗本願寺派 仏教青年連盟 教材委員会

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル 浄土真宗本願寺派宗務所内 TEL：075-371-5181

（代）e-mail：yba@hongwanji.or.jp ※好評につき、数に限りがございます。ご注文はお早めに。